

本事業に取り組むエリア(自治体名)	千葉県松戸市	
本事業の実施主体	千葉県松戸市健康医療部健康政策課	
本事業に参画する団体名	千葉県松戸市健康医療部健康政策課	
地域の状況	①人口	496,807人(R5.1末)
	②地域の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県北西部に位置し、面積61.38km<sup>2</sup></li> <li>・都心から約20km(電車で約30分)の距離</li> <li>・市の西側には江戸川(一級河川)がある</li> <li>・市内には6本の鉄道がある</li> </ul>
	③災害等の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災(最大震度5弱):最大避難者数1,092人、ケガ人12人(全て軽症)</li> <li>・令和元年台風19号:最大避難者数1,393人、最大雨量28.5mm/h、最大瞬間風速 39.8m/s</li> </ul>
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立総合医療センターをはじめとした4つの総合病院</li> <li>・在宅看取りの割合が国・県より多く、在宅医療に強い</li> <li>・病院、診療所などの医療機関相互のネットワーク</li> </ul>
	⑤その他特記事項	
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	<p>コロナ対応では、保健所をもたない一般市として、県と市の権限の違いなどにより、医療提供に関する対応や保健所との調整に苦慮したものの、関係機関との連携に努め、可能な限りの対応を行った。</p> <p>災害時は、ライフライン・道路の寸断、事業者の被災・マンパワー不足等により、平時に行われている医療機関、介護・医療事業者、医療機器メーカー等による支援が遅延・不足することが考えられる。また、道路の寸断・医療機関の傷病者対応により、医療機関への避難入院や電源供給を受けることの困難も想定される。</p> <p>そのため、支援の緊急性が高い在宅療養患者に対して、平時に行っている医療・ケアが災害時にも行えるような支援体制の構築、患者自身の備えの強化が喫緊の課題である。</p>
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	
	③わが地域のBCP観点からの課題	災害時、各事業者・団体は、それぞれの立場で最大限の力で患者の支援にあたると思われるが、事業者・団体が連携して対応する仕組みができていない。
	④その他特記事項	
取り組み内容と目標	中長期的プラン	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)今年度は、個別避難計画のモデル作成を通じて、各取組みを進めていく上での課題や、関係機関を明らかにする。</li> <li>2)次年度は、今年度の取組みを踏まえ、全市の動きへと発展させる。</li> </ol>
	今年度プラン	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)個別避難計画のモデル作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル作成を通じて、効率的な安否確認の仕組みづくり、地域にある資源(電源供給が可能な施設等)の発掘と結び付け、地域で支え合うきっかけづくり、福祉施設等での避難受入れを行う。</li> </ul> </li> <li>2)福祉避難所、HOTセンター、電源供給可能施設の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事業者との連携体制の構築を図る。</li> </ul> </li> <li>3)上記に医療機器メーカーを絡め、連携体制を構築する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医を巻き込み、有事に医療機器メーカーの安否情報を市役所や他事業所と共有できる仕組みを構築する。</li> </ul> </li> </ol>